

ライフワークは田んぼベンチャー



NPO法人太陽と水と緑のプロジェクト代表
田島俊雄さん

田島さんは高校教師を退職後、10年以上インドでスラムの子どもの支援と農村を支援していた経歴を持つ。太陽光発電Ⅱ「太陽」と安心して飲める水Ⅱ「水」を柱として活動してきた田島さんは、日本の農村も支援が必要であると感じた。そして、オーガニックの農業の普及に活路の道があると考え、2015年にNPOを結成するにあたり「太陽」と「水」に「緑」を加えて3本柱とし、北信地域で有機農業に取り組み、米づくりの盛んな木島平村で活動を始めた。

イトミミズの力を利用した完全無農薬の「冬期湛水・不耕起農法」を学び、稲の栽培を始めた田島さん。かつて日本の田んぼに多く生息していた蛭が舞う田んぼ環境を取り戻し、田植えにきた都会の子ども達が田んぼに入り走り廻って親も安心していられる田んぼが、どこでも当たり前になるようにしたいというのが今の想いだ。

また、田んぼの際に建てられた東屋では、

小型のソーラーパネルでLEDを点灯し、田んぼの横を流れる水路の水を活用した超小水力発電にも取り組んでいる。小型のソーラーパネルは、田島さんがインドで青年達に教えたもので、その青年達が作ったものを木島平村で広め、インドと日本をつなぐようとしていくものだ。小水力発電は村に豊富に流れる水を活用しようとするもので、これを村の人達が自分たちで作れるようになれば、家の前や暗い農道を常に明るく灯すことが可能になる。水路から離れた場所では、小型のソーラーパネルを使い、村内の全家庭に設置することができれば、「想定外」の電源喪失が起こってもLEDが点灯し、緊急時には、 아이폰に充電できる。

このように自然エネルギーを積極的に活用することで、木島平村を「世界に誇れるエコビレッジ」にしていけることが田島さんの大きな目標だ。

田島さんのライフワークはまさに、「田んぼベンチャー」と言えるだろう。